

「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」 における2022年度の取り組みについて

1. 検討会の取り組み概要

指宿枕崎線(指宿～枕崎)を持続可能な線区とするための活用策を検討・実行し、多くのお客さまに選ばれる交通手段になることを目的として、2022年度は「指宿枕崎線(指宿～枕崎)活用に関する検討会」を計3回開催しました。

検討会では、線区のご利用実態に関する情報共有や、ご利用者を増やすための線区の活用策の検討および実施に向けた協議などに取り組み、それらを踏まえ各主体にて活用策を実施した結果、多くの方にご参加等頂きました。

2. 出席者

指宿市、南九州市、枕崎市、鹿児島県、国土交通省九州運輸局、九州旅客鉄道株式会社

3. 実施した線区活用策

JR 指宿枕崎線利用促進事業①

社会見学を行う団体への運賃の一部補助や小中学校の校外学習における運賃全額補助、各種啓発活動を実施しました

- ・広報紙や市HPでの利用啓発
- ・教育委員会や学校への働きかけ実施
- ・課外授業への講師派遣
- ・参加者174名(うち、JR利用者174名)



列車を利用した「謎解きイベント」の実施

鉄道の魅力発信や鉄道での移動促進を目的に、列車の移動を伴う謎解きイベント「探偵ニャーロックと消えた三つの秘宝」を企画・開催しました。

- ・参加者78名

JR 指宿枕崎線利用促進事業②

指宿枕崎線をテーマとした紙芝居の作成・配布、フリーペーパーによる情報発信を行い、鉄道の魅力の発信を行うとともに、列車内講座や車窓フォトコンテスト、イベント列車を実施し鉄道の利用促進を図りました

- ・参加者118名(うち、JR利用者118名)

西穎娃駅を利用したイベントの開催

西穎娃駅の駅舎や駅前スペースを活用し、鉄道模型壮行会やミニマルシェ等のイベントを実施しました

- ・来場者63名(うち、JR利用者58名)



「いぶすきバル」の開催

指宿駅前でいぶすきバルを2回開催し、併せてJR利用者への運賃の補助を行うことで、地域間交流の拡大と鉄道利用の促進を図りました

- ・来場者820名(うち、JR利用者60名)

全体

この他にも指宿枕崎線シンポジウムや、SNS を利用したフォトキャンペーン、沿線の駅の清掃活動など 4 件の線区活用策を実施し、全体の参加者等は約 1,600名(うち JR 利用者 約 670 名)でした。

4. 2023年度に実施予定の主な線区活用策

2023 年度は以下の活用策の実施を予定しております。今年は、指宿枕崎線全線開業 60 周年の年です。引き続き、指宿枕崎線の更なる活性化にご協力をお願い致します。

- ・枕崎駅付近の南溟館「果ての鉄道展」を開催
- ・指宿駅前における「いぶすきバル」の開催
- ・西穎娃駅の駅舎等を活用したイベント等の開催
- ・未就学児や児童生徒、高齢者の団体利用への支援及びその広報(JR 指宿枕崎線利用促進事業)
- ・謎解きイベント開催や企画乗車券造成への支援など(地域鉄道活性化支援事業)